

6月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和4年6月末現在〕

令和4年7月12日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、「景況」、「収益状況」は悪化し、「売上高」は改善した。特に「収益状況」の悪化幅が大きかった。

業種別では、製造業は「収益状況」が悪化し、「景況」、「売上高」は変化なしであった。非製造業は「景況」、「収益状況」が悪化し、「売上高」は改善した。

原材料高・燃料高等による収益の悪化を危惧する声が聞かれていたが、今月は収益悪化が数値として表面化した。幅広い業界で、価格転嫁への対応に迫られている状況も見られた。

景況DI

製造業は、前月比増減なしの▲38.5ポイント、非製造業は、前月比4.1ポイント悪化の▲20.8ポイント、全体では、前月比2.0ポイント悪化の▲30.0ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比増減なしの▲19.2ポイント、非製造業は、前月比8.4ポイント改善の4.2ポイント、全体では、前月比4.0ポイント改善の▲8.0ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比7.7ポイント悪化の▲50.0ポイント、非製造業は、前月比12.5ポイント悪化の▲37.5ポイント、全体では、前月比10.0ポイント悪化の▲44.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和4年6月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	食料品製造業	学校給食パン	原材料の価格が、軒並み上昇している。学校給食の主食に分類されるパン、米飯は年度途中の価格交渉は出来ないの、値上げ分は吸収するしかない。
		清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県5月の清酒課税移出数量は、前年同月比117.1%であった。本格焼酎についても、前年同月比119.7%であった。茨城のコロナウイルス感染者はなかなか減らず、飲み会もコロナ禍前と比べると全然戻っていない。清酒でみても、コロナ禍前の3年前に比べても84%であり、まだまだ回復には程遠い。清酒の輸出については、地域や企業間で温度差があるものの、コロナ禍で国内マーケットが不安定の中、輸出に注力し、令和4年4月の前年同月比輸出数量（全国ベース）は、125.4%であった。しかし、ウクライナ危機による今後の世界経済の悪化が懸念される。 ○県内当業界について ・まん延防止等重点措置は解除されたが、外食は依然自粛ムードである。日本酒の主たる消費者である中高年が用心して、外食や飲み会を控えていることが大きい。家飲みでの消費拡大も視野に入れて営業していく必要性がある。地酒の知名度アップと高品質さを消費者に認識してもらう等、Withコロナは企画力の勝負と考える。 ・6月18日に東京国際フォーラムにて全国日本酒フェアが開催され、茨城でも15蔵が参加した。当日は2千名の来場者があり、茨城の清酒のレベルの高さを情宣して、来場者に茨城の地酒をアピールできた。
		納豆	一般消費者向けの商品を主力としているメーカーは、引き続き先月同様の状況が続いている。一方、土産品向け商品を主力としているメーカーは、前月のゴールデンウィーク需要の反動と思われる大幅な売り上げ減少に悩んでいる。ゴールデンウィーク後の反動的な需要減少が起こること自体は通例ではあるものの、今年の反動的な需要減は感染拡大市町村の指定が続いていた昨年より更に同月比で売り上げが減少しており、折角のゴールデンウィークの売り上げ増加分が相殺されてしまうのではとの懸念が広がっている。結局ゴールデンウィーク需要もコロナ禍前には及ばず、それ以前の減収に加えて、その後も売上の数量減少の可能性が示唆されている現状は、業界全体に先行き不安感が行き渡る原因である。また業界全体の懸念としては、すでに始まっている原材料価格の高騰による収益悪化である。
		菓子	感染が徐々に落ち着いて、人流が少し戻って来たかと感じたが、円安・ロシアのウクライナ侵略により、製造やその他の経費高、物価高、原材料不足にもなっている。市民も物価高に苦しみ、可処分所得が減っているように感じる。
		漬物	原材料の値上げが続く中、漬物は販売価格に転嫁できていないのが現状である。全てにおいて、コスト高が激しい。
	繊維工業	袋物	戦争に加えて円安の影響で材料費が高騰してきた。新規発注も遅れている。国内生産に切り替える話もあるが、国内に戻っても現時点对対応は困難かと思われる。
	木材・木材製品	製材	・製品の動きとしては、緩やかな荷動きとなったが、先月に引き続き一部の製品が品薄となった。価格については横ばいの状況。 ・輸入材については、構造材と羽柄材の荷動きが鈍くなった。 ・原木については、スギの入荷は順調で、価格についても全般的には横ばいで推移した。ヒノキは柱・土台材の価格が下がったが、母屋材は高値で推移した。
		県北地区プレカット	材料代と加工代込みの物件が3棟あったので、売上は確保できるが、加工坪数になると目標の60%であった。まだ、回復の兆しが見えてこない。業界全体で木材加工が少なくなっているため、材料が市場に出回り、材料の入荷状況は改善されてきている。
		県央地区プレカット	見積件数は若干増加傾向にあるが、実際に加工はなかなか決まらない。木材の品薄に木材価格も変化していない。電気代・消耗品等値上げになっているので、社員へのコスト削減努力の徹底と加工単価の値上げを模索中。
	紙・紙加工品	段ボール	材料が4月から値上がりしているが、お客様への価格の改定が遅れており、収益を圧迫している。主原料も高騰しているが、その他ガス・電気等、様々なものが値上がりし、最終収益に影響が出始めている。今後が心配される。
	印刷	総合印刷	新型コロナウイルス感染症は一進一退を繰り返しており、予断を許さない。印刷業界にとっても、受注の回復を期待しているが、ここ2年半の間に、生活様式、社会全体の動きが大きく変わってきており、コロナ禍前に戻らないだろうという不安が大きい。
	化学・ゴム	自動車部品	企業により差があるものの総じて厳しい状況が増している。中でも、物価上昇に対して従業員の給与を確保するためには残業を認めなければならず、企業努力に限界が到来しつつある。
	窯業・土石製品	陶磁器	業界の中で、現在忙しい方とそうではない方の二極化の傾向がある。これは当産地に限らず、他の窯業産地にも言えることである。今後、その格差があまり広がらないように注視したい。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会

令和4年6月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非 製 造 業	鉄鋼・金属	鉄鋼	売上は前年同月比10%程度増加した。しかし、自動車関連部品は相変わらず低調であった。電気部品や機械設備等は増加してきた。 貴金属・亜鉛・銅・ニッケル等の金属は前月同様、高値の水準である。 薬品等についても値上がりしている。 組合員の会社でも加工単価の値上げ交渉を始めている。
	一般機器	生産用機械	対象7組合員（製造会社）の売上状況は前年同月比で3社増加で、4社減少であった。全体増減率は前年同月比90%であった。前月に続き、世界情勢による部材の供給遅延などを要因として、主要取引先からの受注が減少した事などから、全体の売上高は前年同月比で減少となった。 組合員企業では、正社員数は変わらないが、派遣社員数が増加している。
	輸送用機器	県北地区自動車部品	前月同様、生産高は一定の基準を維持しているが、部品の価格上昇傾向により収益を圧迫している状況にある。
	卸売業	水産卸	精算所取扱高は前年同月比3.28%増加した。先月同様、商品単価の上昇の影響で取扱高は多少増加しているものの、物量は減少で伸び悩んでいる。当組合が運営している冷蔵倉庫の状況も、在庫貨物量は増えているが、入出庫量が伸び悩んでいる。
		セメント卸	袋セメントの出荷袋数は、引き続き県南地区の建設工事等が活況で増加したが、それ以外の地区は総じて低調に推移。総合的には、前年同月と概ね同様の水準となった。
	小売業	県北地区共同店舗	売上は前年同月比123.6%、客数は同115.5%であり、前年同月の売上を確保した店舗は全体の77%であった。次月から、プレミアム付き商品券の販売も始まるので、さらに期待したい。
		県央地区共同店舗	館全体の既存店と新店の売上（客数）は前年同月比で98%（96%）となり、前年同月よりも悪化した。主要業種では、食品96%（93%）、飲食104%（105%）、ファッション109%（108%）であった。各店舗で原価高騰のため、商品の値上げが増えてきている現状である。 前月に引き続き、外食が増えている影響か、食品（特に生鮮）の売上が下がっている。6/23～6/25は特別ご招待会という年2回のセールスを実施したが、前年並みの売上となった。6月中は九州、北海道、茨城県北の物産展を実施し、お客様からは好調であった。また、新型コロナウイルスの感染者が増加傾向にあり、7月以降の売上に影響が出ないか不安である。
		県南地区共同店舗	今月上旬は、はっきりしない天候が続き商売も今一つ盛り上がりには欠けた。後半は梅雨明けと、猛暑により婦人服の調子が上がってきたものの、前半の挽回には至らなかった。徐々に増え始めている感染状況の影響なのか、依然として対面サービス業種は客数に苦戦している。 文化品の売り上げは、特招会の売上が貢献した。 既存店の売上は前年同月比で、全体115.1%、衣料69.0%、文化品236.3%、食料品105.2%、飲食113.8%、サービス101.3%であった。
		家電	上海ロックダウンの影響等により品不足が続いており、商売のやりづらい月となった。早い梅雨明けは、商売にプラスであるが、体調には注意が必要となる。ライフスタイルの変化、光熱費高騰等の背景により、お客様は省エネ志向が続くと考えられる。
		燃料小売	世界情勢や円安により、原油価格は上昇しており、政府の燃料油価格激変緩和対策も補助上限を超えて、上限超過分を補助する状況である。前年同月と比較すると18円以上も小売価格（茨城のレギュラーガソリンの価格）は上昇しており、物価上昇が企業や家計に影響を与えている中で、石油製品の消費も減少している。
		中古自動車	販売台数が前年同月比で106.7%、販売価格が同110.7%と上昇したことにより、売上高は同118.2%と大幅に増加した。部品調達難による新車供給のひっ迫が中古車の需要増に繋がった形となったが、中古車市場のタマ不足による相場高騰が小売価格を押し上げており、売上高の増加は販売利益には繋がっていない。
		食料品	6月についても来店客数は減少傾向が続いており、売上については、青果物が月初からの相場高により、売価も高くなりお客様の買い控えが多く見られた。逆に中旬以降からの気温上昇により、飲料・アイス等が急激に売上を伸ばした。現在新型コロナウイルス感染者が県内でも拡大している状況であるが、今後も来店客に安心・安全な店であるように感染対策は万全に行っていく。
		野菜・果実	6月の取扱高は、野菜果実合計で前年同月比、上旬は87.2%、中旬は106.2%、下旬は111.1%で推移し、トータルでは100.3%の取扱高となった。5月まで続いていた商品の高値も6月に入ると落ち着きを見せ始め、徐々に組合員の取扱高も増加した。
	商店街	筑西	新型コロナウイルス感染症の影響及び仕入単価の上昇、水道光熱費の上昇等の悪条件ばかりが襲い掛かってくる状況である。電気代、ガス代は信じられない程の上昇である。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会

令和4年6月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非 製 造 業	サービス業	自動車整備	組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数（持込検査）は前年同月比で、減少となった。一昨年来のコロナ禍の影響もあり、普通車の車検台数が減っている。しかし、軽自動車は、若干の増加が見られる。今後は、原油価格等ならびに電気代等の高騰により収益面での悪化が、懸念される。
		ホテル・旅館	県民割事業の効果が宿泊客回復に効果が表れつつあるが、一方で、隣接県ブロック割の拡大については、観光宿泊客が流入よりも県外への流出の状況が見られ、思った程の成果とはなっていないようである。また、ビジネス客の回復が見られるが、観光客は地域や規模などにより、ばらつきがある。また、ウクライナ侵攻などの影響による物価や原材料価格の高騰により、経営が圧迫される状況がある。料金値上げにより乗り切りを図った事業者も見られる。
	建設業	総合	受注競争が激しい状況は変わらない。価格競争は収まらず、発注者が定めた最低制限価格を探る競争が激化し、落札の状況はくじ引きに近い。受注状況が一部の会社に偏るなどの問題が起きている（行政で一社あたりの受注制限を設けてはいるが）。施工能力以上の工事受注をする会社があると同時に、施工能力があるのに受注できない会社がある。
		県北地区管工事	7月から組合員への材料費の値上げに踏み切ったが、仕入先から秋口に追加の値上げ要請があり、組合内で検討している。値上げに対し、先が見えない状況になっている。
	運輸業	一軽貨物運送	当月の組合員数は113名、車輛台数は145台で前月と比較して増減はなかった。また、運送売上高については、前年同月比126.3%と増加であった。全国連合会での当月の組合員数は6,976名、車輛台数8,271台で前月と比較して45名減少、53台減少であった。
		県北地区一般貨物	顧客の出荷物量は、部品調達不足等の影響により減少したまま推移している。一方、燃料価格は更に上昇高騰しており、収益はより一層厳しい状況である。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	学校給食におけるパン給食の回数の増加
	納豆	先月同様の理由（雇用の維持と生産体制の維持に奏功している）により、雇用調整助成金の特例措置は今後とも維持してほしい。また同様に、業況特例等の条件の廃止もしくは緩和を期待する。また同じく、飲食店のように直接的に時短要請の対象ではないので同協力金の支給がないにもかかわらず、時短要請に伴う人流抑制の不利益のみ享受し、それに対する補償がない状況が続いてきたことは観光土産品業界がコロナ対策のはざまに生じたブラックホール状態であり、余りにも偏頗な状況であるとの不満は今もって強くある。そのような中、先般の事業復活支援金は期待されたことではあるが、土産品業界と言う飲食業に劣らぬコロナ禍を被ってきた業界としては不十分であるとの思いは先月同様強くあるので、土産品業界に対するこれまでの時短要請に起因して間接的に生じた不利益に対する補償としての格別の手厚い支援金を要請したい。また振興策としての県民割、ブロック割や、特に以前のGOTOトラベルの様な制度には、現今、政府が積極的に取り組んでいるようであるので、よりブラッシュアップされた形での制度を期待している。また原材料価格高騰への対策も期待されるところである。
小売業	県央地区共同店舗	協同組合や店舗が活用できる補助金や助成金、またイベントで活用できる補助金などの情報や事例を教えて欲しい。
	燃料小売	・揮発油税に課税している二重課税の廃止 ・燃料油価格激変緩和策の継続（期限は令和4年度上半期中となっている） ・円安対策
商店街	筑西	ガス代は令和3年5月と令和4年5月を比較すると、倍以上の上昇である。企業努力にも限界があることを、政治家の皆様にも考えていただきたい。
建設業	総合	行政も一部の会社に仕事が集中するのを避けるために、工事の受注制限を設けている。1社あたり何件と決まっているが、年度初めはその件数を少なくし（年度初めは仕事が少なく入札の競争が激しいため、受注上限の件数を少なくすることで偏りをなくす）、年度後半の繁忙期にはその件数を多くするなど柔軟な発注体制をお願いしたい。

月次景況調査 6月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	6月	5月	前月比	6月	5月	前月比	6月	5月	前月比
景 況	▲ 30.0	▲ 28.0	▲ 2.0	▲ 38.5	▲ 38.5	0.0	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 4.1
売 上 高	▲ 8.0	▲ 12.0	4.0	▲ 19.2	▲ 19.2	0.0	4.2	▲ 4.2	8.4
収 益 状 況	▲ 44.0	▲ 34.0	▲ 10.0	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 7.7	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 12.5
販 売 価 格	30.0	28.0	2.0	15.4	15.4	0.0	45.8	41.7	4.1
取 引 条 件	▲ 18.0	▲ 14.0	▲ 4.0	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 7.7	▲ 12.5	▲ 12.5	0.0

中小企業月次景況調査(令和4年6月)DI値(前年同月比)

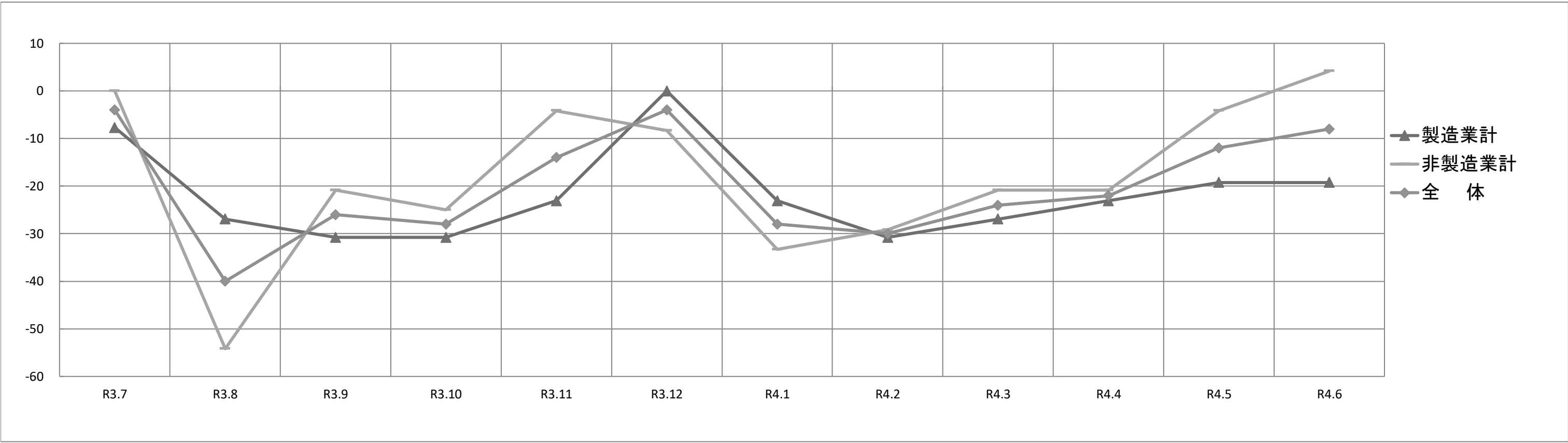
		売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況												
		D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)				D I	(内 訳)													
			増加	不変	減少	業界数		増加	不変	減少	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		上昇	不変	悪化	業界数	増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数		
製造業	食料品	△ 50.0	1	1	4	6	0.0	1	4	1	6	33.3	2	4	0	6	0.0	0	6	0	6	△ 66.7	0	2	4	6	△ 50.0	0	3	3	6	△ 50.0	1	1	4	6	△ 16.7	0	5	1	6	△ 50.0	0	3	3	6
	繊維工業	△ 33.3	1	0	2	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3
	木材・木製品	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
	紙・紙加工品	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	化学・ゴム	△ 100.0	0	0	1	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	窯業・土石製品	△ 20.0	1	2	2	5	0.0	0	5	0	5	40.0	2	3	0	5	△ 40.0	0	3	2	5	△ 40.0	0	3	2	5	△ 20.0	0	4	1	5	20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 40.0	0	3	2	5
	鉄鋼・金属	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	一般機器	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1
	電気機器	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	輸送機器	100.0	3	0	0	3	0.0	1	1	1	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	66.7	2	1	0	3	33.3	1	2	0	3	△ 66.7	0	1	2	3
	製造業計	△ 19.2	7	7	12	26	3.8	3	21	2	26	15.4	5	20	1	26	△ 23.1	0	20	6	26	△ 50.0	0	13	13	26	△ 30.8	0	18	8	26	△ 3.8	5	15	6	26	3.8	2	23	1	26	△ 38.5	1	14	11	26
非製造業	卸 売 業	0.0	0	3	0	3	0.0	1	1	1	3	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3					0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	
	小 売 業 (商店街含む)	0.0	5	2	5	12	0.0	1	10	1	12	41.7	5	7	0	12	△ 25.0	0	9	3	12	△ 25.0	0	9	3	12	△ 25.0	0	9	3	12					△ 16.7	0	10	2	12	△ 8.3	1	9	2	12	
	サービス業	0.0	1	0	1	2					50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0					0	1	1	2	0.0	0	2	0	2		
	建 設 業	0.0	0	5	0	5					60.0	3	2	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 60.0	0	2	3	5	0.0	0	5	0	5	0.0					0	5	0	5	△ 40.0	0	3	2	5		
	運 輸 業	50.0	1	1	0	2					50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0					0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2		
	非製造業計	4.2	7	11	6	24					0.0	2	11	2	15	45.8	11	13	0	24	△ 12.5	0	21	3	24	△ 37.5	0	15	9	24	△ 16.7					0	20	4	24	△ 16.7	0	20	4	24	△ 20.8	1
全 体		△ 8.0	14	18	18	50	2.4	5	32	4	41	30.0	16	33	1	50	△ 18.0	0	41	9	50	△ 44.0	0	28	22	50	△ 24.0	0	38	12	50	△ 3.8	5	15	6	26	△ 6.0	2	43	5	50	△ 30.0	2	31	17	50

D I 値推移表（R3. 7月 ～ R4. 6月期）

《売上高の推移》

前年同月比	R3. 7	R3. 8	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6
食料品製造業	▲ 66. 7	▲ 100. 0	▲ 100. 0	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 33. 3	▲ 66. 7	▲ 83. 3	▲ 66. 7	▲ 50. 0	▲ 16. 7	▲ 50. 0
製造業（食料品製造業以外	10. 0	▲ 5. 0	▲ 10. 0	▲ 20. 0	▲ 10. 0	10. 0	▲ 10. 0	▲ 15. 0	▲ 15. 0	▲ 15. 0	▲ 20. 0	▲ 10. 0
製造業計	▲ 7. 7	▲ 26. 9	▲ 30. 8	▲ 30. 8	▲ 23. 1	0. 0	▲ 23. 1	▲ 30. 8	▲ 26. 9	▲ 23. 1	▲ 19. 2	▲ 19. 2
卸売業	▲ 33. 3	▲ 100. 0	▲ 100. 0	▲ 100. 0	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 33. 3	33. 3	0. 0	0. 0
小売業（商店街含む）	▲ 8. 3	▲ 66. 7	▲ 25. 0	▲ 33. 3	▲ 16. 7	▲ 16. 7	▲ 50. 0	▲ 41. 7	▲ 41. 7	▲ 33. 3	▲ 25. 0	0. 0
サービス業	50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 100. 0	▲ 50. 0	0. 0	▲ 50. 0	0. 0	50. 0	0. 0	0. 0	0. 0
建設業	0. 0	0. 0	20. 0	40. 0	40. 0	0. 0	▲ 20. 0	▲ 20. 0	0. 0	▲ 40. 0	20. 0	0. 0
運輸業	50. 0	▲ 50. 0	50. 0	50. 0	50. 0	50. 0	50. 0	0. 0	0. 0	0. 0	50. 0	50. 0
非製造業計	0. 0	▲ 54. 2	▲ 20. 8	▲ 25. 0	▲ 4. 2	▲ 8. 3	▲ 33. 3	▲ 29. 2	▲ 20. 8	▲ 20. 8	▲ 4. 2	4. 2
全体	▲ 4. 0	▲ 40. 0	▲ 26. 0	▲ 28. 0	▲ 14. 0	▲ 4. 0	▲ 28. 0	▲ 30. 0	▲ 24. 0	▲ 22. 0	▲ 12. 0	▲ 8. 0

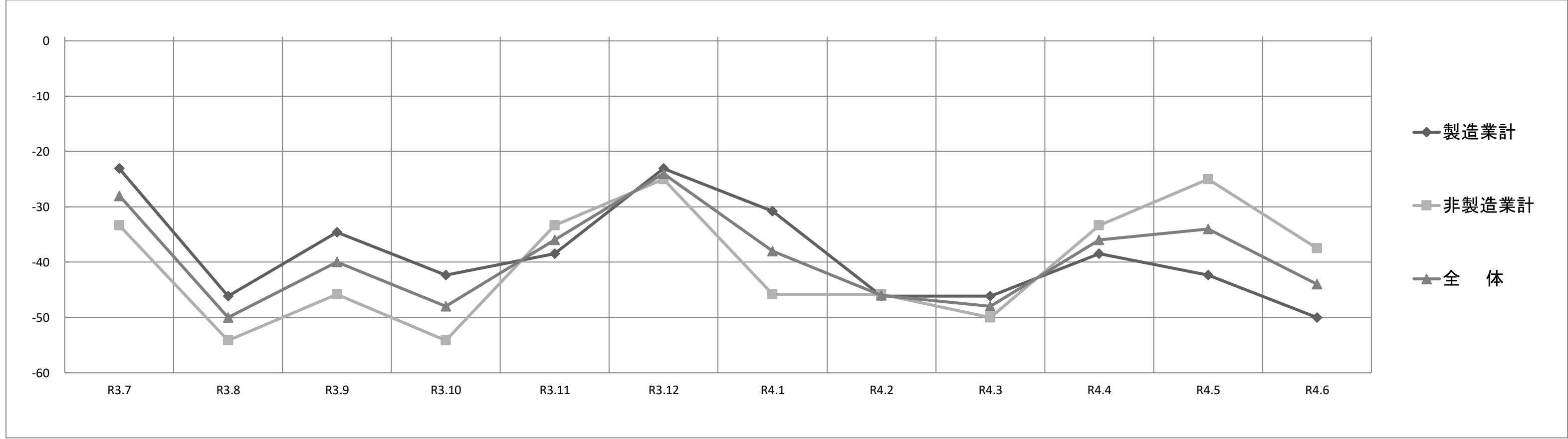
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R3. 7	R3. 8	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6
食料品製造業	▲ 50. 0	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 83. 3	▲ 83. 3	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 66. 7
製造業（食料品製造業以外	▲ 15. 0	▲ 35. 0	▲ 20. 0	▲ 30. 0	▲ 25. 0	▲ 15. 0	▲ 25. 0	▲ 35. 0	▲ 35. 0	▲ 35. 0	▲ 40. 0	▲ 45. 0
製造業計	▲ 23. 1	▲ 46. 2	▲ 34. 6	▲ 42. 3	▲ 38. 5	▲ 23. 1	▲ 30. 8	▲ 46. 2	▲ 46. 2	▲ 38. 5	▲ 42. 3	▲ 50. 0
卸売業	0. 0	▲ 100. 0	▲ 66. 7	▲ 100. 0	▲ 66. 7	▲ 33. 3	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	0. 0	0. 0	▲ 33. 3
小売業（商店街含む）	▲ 58. 3	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 50. 0	▲ 33. 3	▲ 58. 3	▲ 41. 7	▲ 50. 0	▲ 33. 3	▲ 25. 0	▲ 25. 0
サービス業	0. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	0. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 100. 0	▲ 50. 0	0. 0	▲ 50. 0
建設業	0. 0	0. 0	20. 0	0. 0	40. 0	0. 0	0. 0	▲ 40. 0	▲ 20. 0	▲ 40. 0	▲ 40. 0	▲ 60. 0
運輸業	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0
非製造業計	▲ 33. 3	▲ 54. 2	▲ 45. 8	▲ 54. 2	▲ 33. 3	▲ 25. 0	▲ 45. 8	▲ 45. 8	▲ 50. 0	▲ 33. 3	▲ 25. 0	▲ 37. 5
全体	▲ 28. 0	▲ 50. 0	▲ 40. 0	▲ 48. 0	▲ 36. 0	▲ 24. 0	▲ 38. 0	▲ 46. 0	▲ 48. 0	▲ 36. 0	▲ 34. 0	▲ 44. 0

《収益推移グラフ》

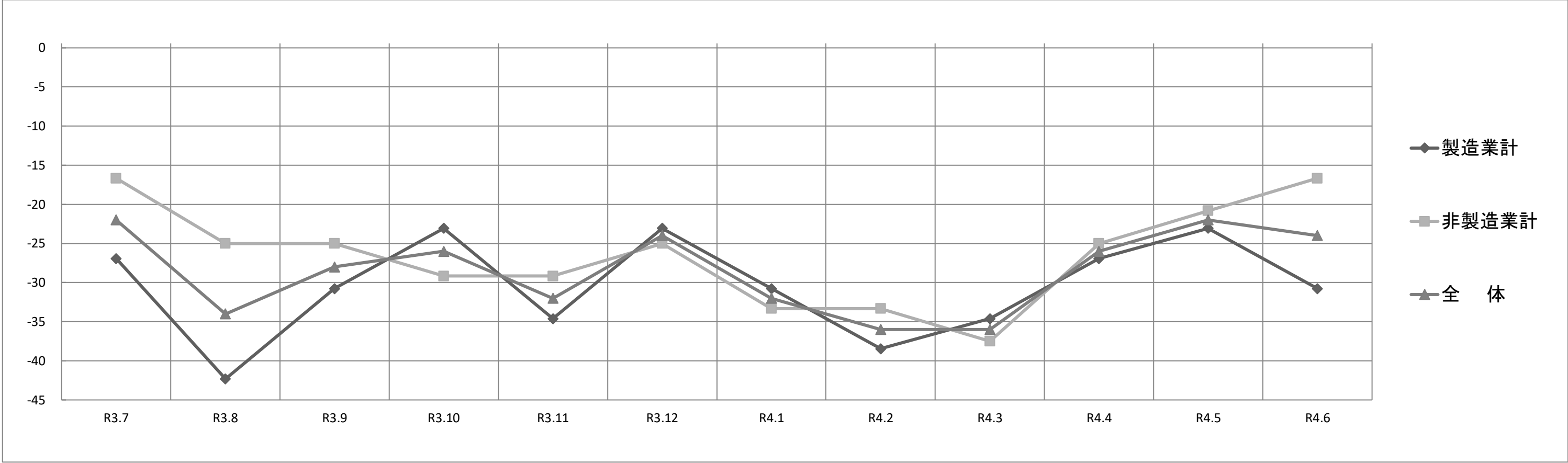


D I 値推移表（R3. 7月 ～ R4. 6月期）

《資金繰りの推移》

前年同月比	R3. 7	R3. 8	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6
食料品製造業	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 50.0
製造業（食料品製造業以外	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 25.0
製造業計	▲ 26.9	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 23.1	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 38.5	▲ 34.6	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 30.8
卸売業	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0
小売業（商店街含む）	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 25.0
サービス業	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 29.2	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 16.7
全体	▲ 22.0	▲ 34.0	▲ 28.0	▲ 26.0	▲ 32.0	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 36.0	▲ 36.0	▲ 26.0	▲ 22.0	▲ 24.0

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R3. 7	R3. 8	R3. 9	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 50.0
製造業（食料品製造業以外	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 45.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 35.0
製造業計	▲ 30.8	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 34.6	▲ 11.5	▲ 38.5	▲ 53.8	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 38.5
卸売業	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3
小売業（商店街含む）	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 8.3	▲ 8.3
サービス業	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	50.0	0.0
建設業	▲ 20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 40.0	▲ 40.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 37.5	▲ 45.8	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 45.8	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 20.8
全体	▲ 34.0	▲ 44.0	▲ 38.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 14.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 48.0	▲ 38.0	▲ 28.0	▲ 30.0

《景況推移グラフ》

